

輸出事業計画

※申請者名：(株)農家ソムリエーズ、品目：かんしょ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

弊社は、全国的に知名度の高い「なると金時」というさつまいものブランドを生産しております。

設立時から生産・販売・加工を一貫して取り組む事業を展開し、2015年から海外展開にも積極的に取り組んでおります。「徳島県農林水産部とくしまブランド推進課」の「とくしま農林水産物等海外輸出戦略」推進事業による海外フェア等に参加することで、2015年の輸出量300kgから2018年度60tまで輸出量を拡大。

2019年度にGFPグローバル産地づくり推進事業を活用し、2021年度120tまで輸出量を増加させることができました。その背景には、アジア圏を中心にさつまいもの需要が高まっている状況があります。

特に、香港・台湾において、なると金時は、「甘くふわつとした食味」「皮ごと食べられて栄養価が高そう」「表皮の見た目が綺麗」の印象があることから、鹿児島県産の小売価格100-150台湾ドルに対して、徳島県産180-250台湾ドルと約60%も高く1番の売れ筋とされています。また、昨今、タイ・カナダでの需要が高まり、生産工程管理(GAP)を遵守した「なると金時」の生産が求められています。

このことから、輸出先国で需要がある中で下記の課題が問題としてあげられます。

- ① 海外で需要のある規格が収穫全量の約25%しかない小ぶりで食べやすいサイズである為、絶対量が少なく慣行栽培では安定供給が難しい。
- ② 収穫されたさつまいもを保管する貯蔵施設の不足と納品時期に品質管理された環境で出荷調整作業ができず品質の低下ならびに輸出先へチャンスロスが発生している。
- ③ 各国の検疫に対応した、農業生産工程管理(GAP)を遵守した園地を確保し、大規模輸出に対応した「なると金時」の生産基盤を強化する必要がある。

生産		流通	
1	密植生産による増産と調達	1	需要増に伴い集出荷貯蔵施設の建設
2	各国の検疫に対応したJGAPの取得	2	集出荷貯蔵施設内でのバンニング
3	園地増産を目的としたGAP団体認証の取得	3	トレーサビリティが把握できる流通経路の確保

2. 輸出事業計画の取組内容



生産

1. 密植生産による増産と調達

- ① 徳島県と輸出ニーズ対応型生産体系の確立
- ② 課題解決型生産技術の向上と担い手育成
- ③ 安定的な輸出階級の調達

2. GAP取得による増産

- ① JGAP団体認証の取得
- ② GAP認証園地の拡大

流通

1. 集出荷貯蔵施設の確保

- ① 自社倉庫の建設
- ② 貯蔵・選果の一貫体制の確立

2. 産地バンニング

集出荷貯蔵施設内での産地バンニング

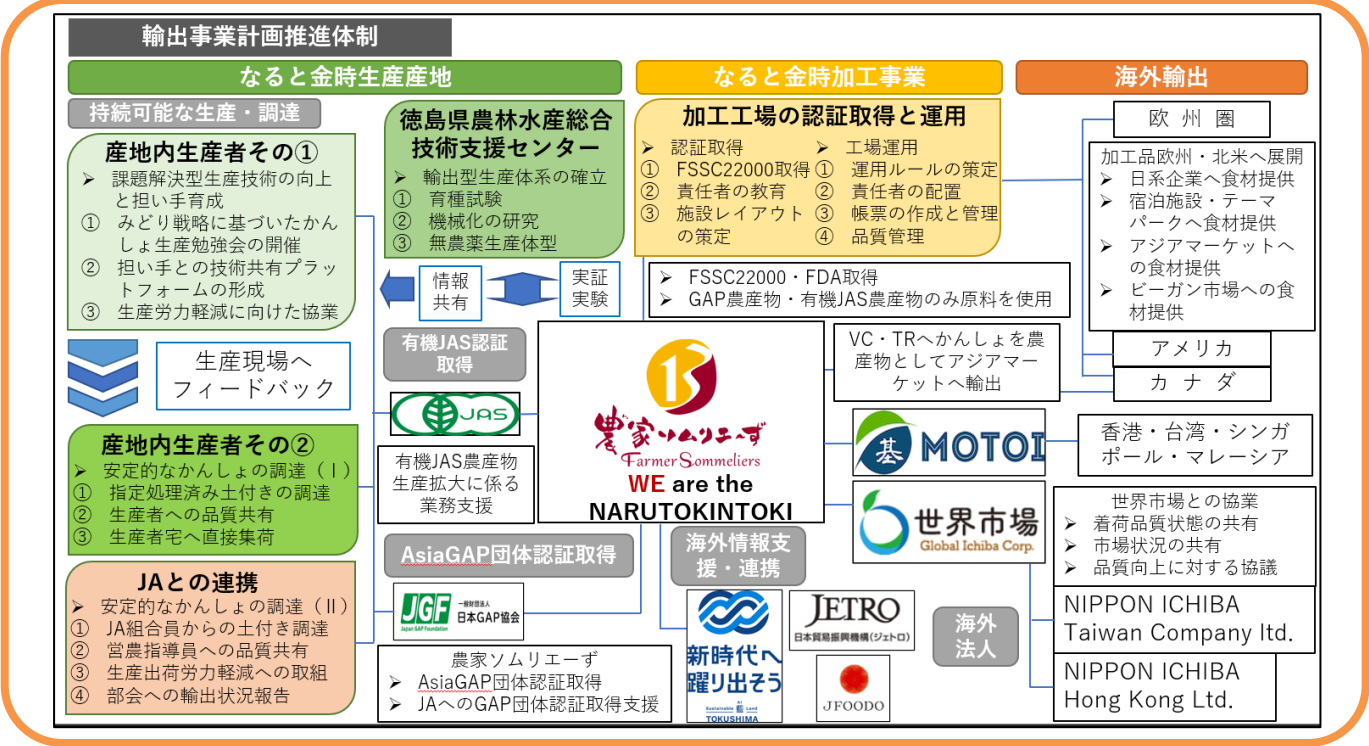
3. 流通経路の確保

産地 ⇒ 港 ⇒ 輸出国となる流通経路

輸出事業計画

※申請者名：株式会社農家ソムリエーズ、品目：かんしょ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

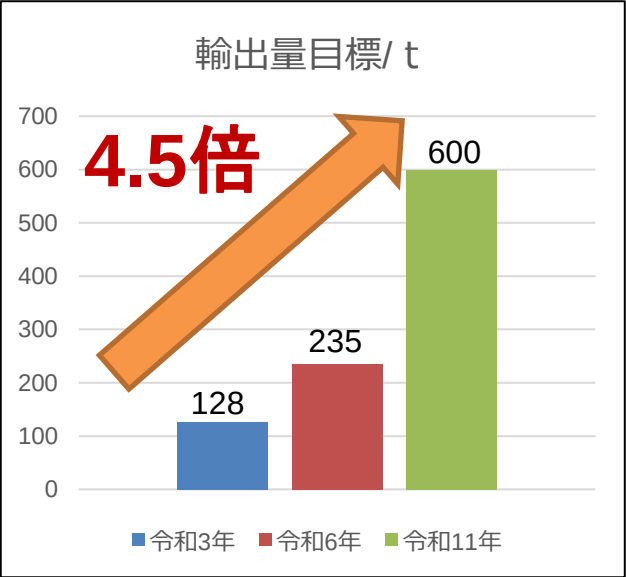


4. 輸出目標額

2029年度(令和11年)輸出目標量600t

香港・台湾を中心にさつまも【なると金時】の需要が伸びている。この需要に対応するために、令和5年作より徳島県立農林水産総合技術支援センターと実証実験を図りながら輸出圏場を形成。令和6年度から産地内でバンニング可能な集出荷貯蔵施設を稼働させ、なると金時の安定的な輸出を目指す。

また、流通に向けた役割として、香港・台湾は、現地法人を有する世界市場が担い、すでに輸出を行っている東南アジアをはじめ需要が見込まれるタイ・アメリカ・欧州・カナダは、地域商社が輸出へと繋げる。



	令和3年	令和6年	令和11年
輸出量/t	128t	235t	600t
輸出額/千円	48,265千円	88,830千円	300,000千円